

みなさんの身の回りをほとんど年中飛び回っているのに、ほとんど気にもとめないで見過ごしているヤマトシジミの紹介です。名前は日本(大和)を代表するチョウのようですが、北は青森、秋田、岩手の一部に見られ、それより南では各地に広く分布。北海道にはいません。幼虫はカタバミの葉っぱを食べて育ちます。小さいチョウの代表であるシジミチョウ科に分類され、その大きさがはね全体で 2.5 cm 足らずときわめて小さく、飛び方はけっこう早いランダム飛翔で裏羽の灰白色だけが目立ち、何かチラチラと飛んでいるな、と気づいている人はけっこういるはずですが、このチョウは関東から南ではあまりに普通にみられるためチョウ採集を趣味にしている人でも、よほどでないで見向きもしません。ところが、このチョウのはねの表面をよくよく観察するとすばらしく美しいブルーに輝く鱗粉がちりばめられているのに驚かされます。松波町北側公園では朝早くから朝日を受けて日光浴をしている姿をみますが、このとき、太陽光線のあたる角度



80630 松波町

によって、まるで宝石のようなブルーの輝きをみせてくれます。左の写真は、ちょうどそういうタイミングで撮影したものです。多くのチョウは、外気温が高くなるまではねを動かすための筋力が作動しなく、日光浴によって体温の上昇を待つ光景がよくみられます。このときにとる姿勢はさまざまで、体にたいしてはねをV字型に開くタイミングが、チョウ撮影を趣味とする人にとって最も好まれます。はね全体を平に広げて太陽光を受ける光景もよく見られますが、V字態勢だとはねの裏表、両方の特徴を一度にとらえられるというのが好まれる要因です。

興味ある観察例として、羽化してまもないと思われる新鮮♂に♂が羽を小刻みに震わせながらミス求愛で迫ってゆく光景にでくわし、しっかりビデオ記録を撮りました。迫られた♂はときおり羽を開いて「ボクは♂なんだけど」と応えていたのですが、しばらく求愛ポーズをとり続ける♂でした。実際の♀は涼しい秋まではもっぱら翅表が黒一色であり、♂は♀の広範な黒色をマーカーとして認識するのだと思うのですが、この♂は何で♀だとおもったのでしょうか。



80701 西畑：♂のミス求愛



June 27, 2008 加古川市志方町♀



Nov. 11, 2008 西畑♀



Nov. 13, 2008 西畑

ヤマトシジミの♀は秋が深まると翅表にしゅいブルーの鱗粉をちりばめた美しい姿で登場します。これら美しい♀がみられるようになる日没の早い晩秋に、ヤマトシジミが多い草むらを散策していると、あちこちで眠りに入る準備を整えた姿を目にすることができますが、その多くが雨露をしのげる草陰ではなく植物先端の花穂部に頭を下にした姿勢をとっていました。雨の日だったらどのような過ごし方をするのか、今後注意して観察する必要があります。